

私は8月3日・4日に東大見学会・企業大学訪問に行った。

1日目は笹川平和財団日本財団ディレクトフォース共催の夏季プログラムに参加し、その後企業面として三菱商事を訪れた。

そのとき、私は大企業の本社の雰囲気圧倒され、とても緊張した。しかし、受付の方々や社員の方々が気軽に私たちに話しかけてくださり、少しリラックスすることができた。

事前準備としてホームページを熟読したものの、難しい言葉などもあり三菱商事の事業をしっかりと理解することはできなかった。しかし、三菱商事の寺島さんは私たち高校生にもわかりやすく教えてくださった。

そこで改めて知ったのは三菱商事と言う会社の規模の大きさだ。以前は仲介事業者のようなビジネスをしていたが、現在は「総合事業会社」としてビジネスをしている。また、世界90カ国にまで及び連結対象会社数は626社もある。そして連結従業員数は68,383人もいる。さらに、寺島さんによれば、世界中のほとんどの国で三菱商事は何かしら関係しているようだ。

具体的な事業だと、地球環境・インフラ事業グループや新産業金融事業グループ・エネルギー事業グループ・金属グループ・機械グループ・化学品グループ・生活産業グループの計7つのグループに分かれて行っている。これらのグループの名前を見て、事業内容のイメージがつくものもあれば、わかりにくいものもある。ここでは特にわかりにくいような新産業金融事業グループについて説明してみる。この事業では、実物資産を対象として産業に対する資金供給や投資家の運用機会を拡大して、産業金融の発展に貢献したり、従来の金融モデルを発展させた独自の新たな金融ビジネスを展開したりしている。また、不動産開発や物理分野におけるソリューションの提供も推進しているようだ。

三菱商事は「ラーメンから航空機まで」というようにとても幅広い分野で事業を行っていて、私たちの生活にも知らず知らずのうちに三菱商事という会社関わっている。

このように幅広い分野で事業を行うことについて「どんな利点があるのですか？」と聞いてみると、「例えば不安定なエネルギー部門で大きな損失を被ってしまっても、他の部門でそこをカバーすることができれば、会社としてはやっていくことができる。」と、おっしゃっていた。

また、学生のうちにたくさんの失敗をしておくことが大切なのだと教わった。「大人になってから失敗すると取り返しのつかないことになるし、自分の責任となって返ってくるけど、学生のうちに失敗してもまたやり直せばいいんだよ。」とおっしゃっていました。それだけでなく、失敗したことからは多くのことが学べる。どうして失敗したのか、どこでつまづいたのか。失敗した原因を考えることが、成功することにつながる。

何かを行うときは目的を持って、自分が何をしたいのかと言う意図をしっかりと持って挑まなければいけない。こういったことも学ぶことができた。

寺島さんはリーマンショックのときにはもうすでに三菱商事に入社されていたので、当時の状況についても聞いてみました。当時は、どの会社も経営が厳しく、他の会社に「もの」を売ろうとしてもその「もの」の価値が下がっていて利益が全くない状況だったそうです。しかし、そんなときに助けになってくれたのが、長年連携してともに事業を行ってきた会社だったそうです。この話を聞いて、やはり辛いときに助け合うことのできる仲間が大切なのだなと感じた。

ほかには、寺島さんの友人の話を通して気づいたこともある。

何かに挑戦しているときにつまづいてしまったら、自分のやりたい事を見返すことで自分の

ゴールに向かって進むことができること。自分の目標としていることに執着心をもって行い、自分の自信になるほど努力することが大切だということ。これは勉強にも当てはまると思う。例えば、自分の行きたい志望校に執着心をもっていれば、本気でそこを目指すことができるとし、自信になるほど勉強していれば本番で緊張しすぎることもなくなると思う。これらのことは簡単なことではなく非常に難しいことだが、少しずつでもできていけるように頑張りたい。

2日目の東京大学のオープンキャンパスでは、まずその広さに驚いた。さすが日本一の大学だなと思った。

私は今回、工学部の学部説明会に参加した。これは、あの有名な安田講堂で行われ、行動の大きさにもまた驚かされた。

説明会は教授のような方の簡単なプロフィール紹介がされたあと、名前の通り学部の説明が行われた。この説明では、難しい言葉が出てきて理解することが大変なことが多々あった。このことから、東京大学のレベルの高さを再確認することができたような気がした。

私は東京大学には来たことがなかったので、どのような雰囲気なのかとかがわからなかった。だから、そういった意味では高校生のうちにいちど東京大学を訪れることができよかったですと思っている。

今回の体験を通して、現在働いている社会人の方々のアドバイスを忘れずに、私も1人前の社会人になるように頑張りたいと思った。また、自分も日本を代表するような会社で働きたいと思った。